

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年12月28日
【四半期会計期間】	第35期第2四半期（自平成23年8月16日至平成23年11月15日）
【会社名】	株式会社銚子丸
【英訳名】	Choushimaru Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 堀地 速男
【本店の所在の場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 越智 洋
【最寄りの連絡場所】	千葉県美浜区浜田二丁目39番地
【電話番号】	043-350-1266（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 越智 洋
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期 累計期間	第35期 第2四半期 累計期間	第34期
会計期間	自平成22年 5月16日 至平成22年 11月15日	自平成23年 5月16日 至平成23年 11月15日	自平成22年 5月16日 至平成23年 5月15日
売上高(百万円)	8,674	8,565	17,391
経常利益(百万円)	560	275	1,128
四半期(当期)純利益(百万円)	266	122	581
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)			
資本金(百万円)	315	315	315
発行済株式総数(千株)	2,903	2,903	2,903
純資産額(百万円)	3,678	4,037	3,993
総資産額(百万円)	6,546	6,880	7,162
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	91.93	42.30	200.37
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
1株当たり配当額(円)			27.00
自己資本比率(%)	56.2	58.7	55.7
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	152	3	847
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	145	208	261
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	31	2	51
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	2,634	2,924	3,131

回次	第34期 第2四半期 会計期間	第35期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成22年 8月16日 至平成22年 11月15日	自平成23年 8月16日 至平成23年 11月15日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.42	24.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間（平成23年5月16日から平成23年11月15日）におけるわが国の経済は、東日本大震災による影響や、その後の電力不足等による景気の停滞から、一部に持ち直しの傾向が見られたものの、雇用情勢に回復の兆しは見られず、米国の景気減速、欧州の債務問題に加えて急速な円高・株安の進行など景気下振れも懸念され、先行き不透明な状況で推移いたしました。

外食産業におきましても、雇用情勢の悪化懸念等により消費者の節約志向が依然として根強く、デフレ傾向を背景に低価格競争が激しさを増すなど、引続き厳しい状況が続いております。

このような状況において、当社は経営理念に掲げる「私達の『真心』を提供し、お客様の『感謝と喜び』を頂くことを私達の使命と致します」に基づいた「おいしい舞台」作りのために、「飽きの来ない旬の食材」「鮮度」「海の香り」「魚屋の精神」「番屋の雰囲気」を追求するとともに、「おいしい舞台」を完成させるために、「親切・思いやり・誠実さ」に溢れた接客・サービスを愚直に実践し、「お客様のご要望に対して、何が足りないのか」を常に考え、全社一丸となってお客様に愛される店舗づくりに邁進いたしました。

店舗開発につきましては、当第2四半期累計期間において南船橋店（平成23年8月）及び富里店（平成23年9月）を新規に出店し、相模原中央店（平成23年10月）を退店した結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は77店舗となりました。

販売促進につきましては、時節の旬の食材によるイベントの継続的開催、及びセットメニュー・サイドメニューの充実を図るとともに、「5貫500円セット」を新たにメニューに加え、低価格志向のお客様の来店動機高揚に努めてまいりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間における既存店売上高は前年同期比92.4%にとどまり、売上高は85億65百万円（前年同期比1.3%減）となりました。売上高の減少、震災・天候不順等による原材料価格の上昇や、販売体制強化にともなう人件費増加などにより、営業利益は2億58百万円（同52.0%減）、経常利益2億75百万円（同50.8%減）、店舗に係る減損損失45百万円及び店舗閉鎖損失3百万円を特別損失に計上したことにより、四半期純利益は1億22百万円（同54.0%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ2億81百万円減少し、68億80百万円（前事業年度末比3.9%減）となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動資産は、前事業年度末に比べ3億5百万円減少し、37億96百万円（同7.5%減）となりました。減少の主な内訳は、現金及び預金2億6百万円の減少、ならびに原材料及び貯蔵品47百万円の減少であります。

固定資産は、前事業年度末に比べ23百万円増加し、30億84百万円（同0.8%増）となりました。これは、当第2四半期累計期間において2店舗を新規出店したことによる店舗設備、敷金及び保証金の増加があった一方で、減価償却等により店舗設備等の減少があったことによるものであります。

(負債・純資産)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ3億26百万円減少し、28億43百万円（前事業年度末比10.3%減）となりました。主な要因は、次のとおりです。

流動負債は、前事業年度末に比べ3億27百万円減少し、21億61百万円（同13.2%減）となりました。減少の主な内訳は、買掛金2億32百万円の減少、ならびに納税資金として調達した短期借入金1億円の増加、未払法人税等1億64百万円の減少であります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円増加し、6億82百万円（同0.2%増）となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ44百万円増加し、40億37百万円（同1.1%増）となりました。これは当第2四半期累計期間の四半期純利益1億22百万円及び第34期期末配当金の支払78百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して2億7百万円減少し、29億24百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は3百万円（前年同期は1億52百万円の獲得）となりました。これは、税引前四半期純利益2億26百万円、減価償却費1億25百万円による資金の獲得及び、法人税等の支払額2億68百万円による資金の使用によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は2億8百万円（前年同期は1億45百万円の使用）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1億61百万円、敷金及び保証金の差入による支出27百万円による資金の使用によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は2百万円（前年同期は31百万円の獲得）となりました。これは短期借入金の純増加1億円による資金の獲得及び、リース債務の返済による支出25百万円、配当金の支払額77百万円による資金の使用によるものであります。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

（5）研究開発活動

特に記載すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,800,000
計	10,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年11月15日)	提出日現在発行数(株) (平成23年12月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,903,600	2,903,600	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	2,903,600	2,903,600		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年8月16日～ 平成23年11月15日		2,903,600		315,950		236,829

(6) 【大株主の状況】

平成23年11月15日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社オール・エム	千葉県東金市南上宿19-5	784,000	27.00
堀地 かなえ	千葉市美浜区	360,000	12.39
堀地 ヒロ子	千葉市美浜区	335,160	11.54
堀地 速男	千葉県東金市	237,440	8.17
堀地 篤人	千葉県東金市	232,000	7.99
堀地 元	千葉市美浜区	48,000	1.65
銚子丸社員持株会	千葉市美浜区浜田二丁目39番地	37,900	1.30
土井 茂治	千葉県八千代市	7,000	0.24
宮田 秀二	千葉県船橋市	4,200	0.14
池田 初江	千葉市花見川区	3,100	0.10
計	-	2,048,800	70.56

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年11月15日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,902,900	29,029	
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	2,903,600		
総株主の議決権		29,029	

【自己株式等】

平成23年11月15日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)銚子丸	千葉市美浜区浜田二 丁目39番地	200	-	200	0.01
計	-	200	-	200	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成23年8月16日から平成23年11月15日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年5月16日から平成23年11月15日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成23年11月15日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,568,121	3,361,212
売掛金	4,612	2,287
原材料及び貯蔵品	212,943	165,520
預け金	105,435	60,075
その他	210,763	207,098
流動資産合計	4,101,877	3,796,194
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,093,954	1,088,264
その他(純額)	559,628	572,161
有形固定資産合計	1,653,582	1,660,426
無形固定資産	20,924	24,471
投資その他の資産		
敷金及び保証金	744,852	754,438
建設協力金	349,855	345,111
その他	292,840	301,318
貸倒引当金	1,078	1,078
投資その他の資産合計	1,386,470	1,399,789
固定資産合計	3,060,977	3,084,687
資産合計	7,162,855	6,880,881
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,022,086	790,062
短期借入金	150,000	250,000
未払金	759,952	725,009
未払法人税等	285,247	120,473
賞与引当金	65,600	76,200
株主優待引当金	25,688	26,405
その他	180,002	172,850
流動負債合計	2,488,577	2,161,001
固定負債		
資産除去債務	154,609	157,711
長期未払金	359,700	359,700
その他	166,834	164,955
固定負債合計	681,143	682,367
負債合計	3,169,721	2,843,368

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年5月15日)	当第2四半期会計期間 (平成23年11月15日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	315,950	315,950
資本剰余金	236,829	236,829
利益剰余金	3,441,087	3,485,521
自己株式	636	636
株主資本合計	3,993,231	4,037,665
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	97	152
評価・換算差額等合計	97	152
純資産合計	3,993,133	4,037,512
負債純資産合計	7,162,855	6,880,881

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
売上高	8,674,271	8,565,082
売上原価	3,568,089	3,582,835
売上総利益	5,106,181	4,982,247
販売費及び一般管理費	4,567,899	4,724,029
営業利益	538,282	258,217
営業外収益		
受取利息	3,222	2,819
協賛金収入	14,398	14,613
その他	9,489	5,066
営業外収益合計	27,110	22,499
営業外費用		
支払利息	2,860	2,932
現金過不足	1,737	1,657
その他	25	169
営業外費用合計	4,622	4,759
経常利益	560,770	275,957
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	61,763	-
減損損失	-	45,901
店舗閉鎖損失	-	3,611
特別損失合計	61,763	49,512
税引前四半期純利益	499,006	226,445
法人税等	232,101	103,621
四半期純利益	266,904	122,824

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	499,006	226,445
減価償却費	118,566	125,444
減損損失	-	45,901
店舗閉鎖損失	-	3,611
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	61,763	-
建設協力金と相殺した地代家賃・賃借料	21,879	22,844
賞与引当金の増減額(は減少)	45,280	10,600
受取利息及び受取配当金	3,231	2,828
支払利息	2,860	2,932
売上債権の増減額(は増加)	2,463	2,324
たな卸資産の増減額(は増加)	50,205	47,423
仕入債務の増減額(は減少)	153,132	232,023
未払消費税等の増減額(は減少)	21,314	20,149
その他	69,167	41,727
小計	454,767	274,253
利息及び配当金の受取額	1,391	700
利息の支払額	2,836	2,870
法人税等の支払額	301,167	268,406
営業活動によるキャッシュ・フロー	152,155	3,677
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	413,715	413,952
定期預金の払戻による収入	413,029	413,715
有形固定資産の取得による支出	99,130	161,996
無形固定資産の取得による支出	-	4,767
長期前払費用の取得による支出	49	12
敷金及び保証金の差入による支出	49,000	27,010
敷金及び保証金の回収による収入	2,911	2,823
建設協力金の支払による支出	-	17,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	145,955	208,199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350,000	500,000
短期借入金の返済による支出	260,000	400,000
リース債務の返済による支出	19,555	25,538
自己株式の取得による支出	338	-
配当金の支払額	38,797	77,087
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,307	2,625
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	37,508	207,147
現金及び現金同等物の期首残高	2,596,519	3,131,156
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,634,027	2,924,009

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
税金費用の計算方法	税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
販売費及び一般管理費の主なもの	販売費及び一般管理費の主なもの
給料及び賞与 2,108,040 千円	給料及び賞与 2,208,843 千円
賞与引当金繰入額 112,280 千円	賞与引当金繰入額 76,200 千円
株主優待引当金繰入額 16,036 千円	株主優待引当金繰入額 16,403 千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年11月15日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表 に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年11月15日現在)
現金及び預金 3,070,977千円	現金及び預金 3,361,212千円
預入期間が3か月を超える定期預金 436,950千円	預入期間が3か月を超える定期預金 437,202千円
現金及び現金同等物 2,634,027千円	現金及び現金同等物 2,924,009千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成22年5月16日 至 平成22年11月15日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年8月5日 定時株主総会	普通株式	39,197	13.50	平成22年5月15日	平成22年8月6日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成23年5月16日 至 平成23年11月15日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年8月5日 定時株主総会	普通株式	78,389	27.00	平成23年5月15日	平成23年8月8日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度の末日に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券は当社の事業の運営において重要なものでないため記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、グルメ回転寿司事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成22年5月16日 至平成22年11月15日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年5月16日 至平成23年11月15日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	91円93銭	42円30銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	266,904	122,824
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	266,904	122,824
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,903	2,903

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

記載すべき事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年12月28日

株式会社銚子丸
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉澤祥次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社銚子丸の平成23年5月16日から平成24年5月15日までの第35期事業年度の第2四半期会計期間（平成23年8月16日から平成23年11月15日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年5月16日から平成23年11月15日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社銚子丸の平成23年11月15日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。